

提携米通信

2013年7月号・黒瀬農舎

一 転好入となり、稲はすくすく育っています。



日 植えが終わり、苗取り月の1200円の鴨の受へ準備

今年は、種蒔きから日 植えが始まるまで、付近の日 日も驚く厳しい寒さが長期間続きました。

ところで、昔は、日 苗の一角に直に種を蒔く苗代で葉っぱが5枚出た頃手で日 植えしていました。

泥日 の中で腰を屈めて行うこの日 植えは、一番苦しい農作業でした。

しかし、昭和40年代頃には日 植機が開発されたことで、農家は日 植えの苦学からやっと解放されました。

機械で日 植えを行うようになってから、苗作りの方法も根本的に変わり、種は1尺×2尺の大きさの2号程度の浅い「を」をいれた苗箱に蒔き、寒い地方ではビニールハウスで箱育苗するようになりました。

箱育苗の教科書は「育苗期間中に気温が9℃を回るとダメ」となっており、実際にも、寒い年には未熟な農家の苗は、寒さによって病気で枯れることが多いでした。

今年の育苗期間は、冒頭のように、9℃どころか、最低気温0℃、日中の最高気温が5℃とか、ミゾレや雪が降る日など、過去の記録にない寒い日がびっしょりと続きました。

我が家の場合は、十数年も前から、この苗箱育苗を、ビニールハウスではなく、寒さをモロに受ける露天で行っているので、少々の寒さへの対応には慣れていますが、さすがに今年の長期にわたる低温には、少々心配していました。

ところが、結果的には、我が家はもちろん、近隣の農家も、寒いために日 植えのスタートが予定より1週間から10日程遅れたものの、苗はほぼ平年並みに育ちました。

今までの苗作りの常識からすると、この悪入候の中で育ったことは「奇跡」です。

苗作りの教科書で「ダメだ」と言われているのに無事だった理由は2つのようです。

1つは、生物の環境適応能力の強さ。生命力は無限度大です。2つ目は、びっしょりと長く経験したことのない寒さに遭遇した農家が、緊張し、熟練した緻密な管理技術を遺憾なく発揮したことです。

この2つが、今までの常識を覆し、不可能を可能にしたようです。

昨今の世は、今までの常識で眺める限り、人口減少、少子高齢化、雇用手不足など等、暗いことばかりです。

でも、今までの常識を持ったままで、アベノミクスの経済成長に期待しても落胆が待っているだけです。安倍さんや政府の能力が及ばない経済メカニズムの問題だから、投資感覚のない投機だけの金融マフィアが喜ぶだけで、实体经济の改善は所詮無理なのです。

「もはや経済成長はない」「日本の人口は、明治維新時代並で増えない」などと今までの視点を転換すれば、案外楽しい人生、生き甲斐が生まれるのではないかと、今年の悪入候を乗り切った苗に接して思うところです。

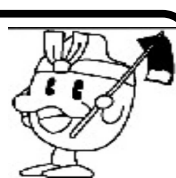
提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・友基

TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887



☆ 暑い時期に育ちます。お米の保管にご注意の上余り気味の際はパスや減量の連絡をどうぞ遠慮なくお願いします。

E-mail: akita@kurose.com Web:

提携米 黒瀬農舎

検索

草取りの人手が足りない。マガモ君に頼みました。

無農薬のお米作りの場合には、日植えを終えると毎年、草との闘いです。

除草剤を使わない栽培には、深水にするなど種々の緻密な管理で雑草の発生を抑えるように、頑張るのですが、最後は、人手に頼るしかないのが実情です。

以前には、毎日20人を超えるパートの女性が草取りの応援に来てくれましたが、近年この人たちの高齢化で、毎日10人の女性を集めるのが精一杯となりました。



餌場寝床ハウス作り



働き者のマガモ君

そこで、数年前から、カモを活用した除草を行っている近隣の有機栽培仲間の実情を教えて貰っていました。その中の1人が、カモ導入を止めることになり、脱走防止用のネットなど鴨用の資材一式を貸してくれることになり、今年からカモを導入してみました。

ところでカモ除草は20年余り前から全国各地で試みられていますが、我が村にも20人余りの農家がカモを利用しています。

除草用のカモのヒナを供給してくれるところは、全県に数カ所ありますが、その供給量によって、カモの種類が違ってくるようです。

我が家の場合は、純血の野鳥マガモを飼育した卵から生まれたマガモですが、多くは、アヒルとマガモを交配した「アイガモ」が多いようです。

また「アイガモ」であっても、交配によってヒナの供給量に、品種、性質が大きく違うようです。

我が家が導入した「マガモ」は、小型で運動量が多いようで「よく働く」ようです。

日植えが6月始めに終わって、早速、カモの受け準備に取り掛かりました。

受けに必要なのは、カモの餌場と寝床のための小屋を造ること。除草する日頃から脱走しないように、日頃の周囲にネットを張ること。がうな作業ですが、これが結構手間がいるもので、日植え後大忙しでした。

カモは、6月10日にレンタカーを借りて、山形県の飼育家まで譲り受けに行きました。

譲り受けたマガモは、5月20日前後に生まれ餌付けした20日ほどのヒナ1200羽で非常に健康で元気でした。

そのカモを300羽づつに分け、周囲をネットで囲んだ4ブロックに放鳥しました。

ネットの総延長も2.5Kmに及ぶのでネット設置には3日ほど費やしました。

朝夕2回の餌やりや、カラス、トビ、イタチなどにカモが襲われるので、その対策や、日頃の廻りには、ネットを張り巡らしているとは云っても、それが破られたりするので、毎日早朝から管理作業に大忙しです。

数日でカモはなついて、日頃に着くと「餌が欲しい」と大きな声で鳴き、日頃の廻りを歩くと、ネットのそばを群れになって付いてきます。

実に可愛いものです。



ネット張り作業



マガモ到着 6.10



日頃に元気に頑張るマガモ君